



かじおがひろ樹



35歳

～守谷市長選挙特集号～

11月11日投票!

会田市長まさかの出馬表明 多選・世襲・無投票 どうなる守谷の未来?

4年前の選挙で今期で「総仕上げ」と言っていたが総仕上げできなかったのでしょうか?

11月11日投開票の守谷市長選挙が近づき、9月14日に現職の会田真一市長が6期24年に向けてまさかの出馬表明をしましたが、残念なことに無投票当選の公算が高いです。会田市長は私が中学生の頃から町長をされており、この20年間で守谷は目覚ましい発展を遂げ、会田市長は守谷の1時代を築きました。しかし、守谷は住宅公団やTX開通などの外的要因で誰が市長をやっても発展し、インフラ整備できるような成長期は過ぎたことは、駐車場だらけの使いづらい駅前開発の失敗を見ても明らかです。今後もこれまでの20年間と同じ手法で、同じ感覚で市政を運営していて、守谷市の発展は見込めるのでしょうか? 開発も飽和状態になりつつありますし、少子超高齢化の社会構成になり、地域コミュニティも新しい時代に対応するように作り変えていかねばなりません。民間企業であればどうでしょう? 「社長が長期にいたる場合や世襲では企業が時代の変化に対応できない」「社長は3期6年が限度だ」という声を耳にします。企業はトップを替え企業イメージを一新して発展をしていきます。ひろがえて、守谷市政はどうでしょうか? 現市長は6期目を目指しており、24年の長期となり、全国最多となります。市役所を含め、市全体が明るい雰囲気になるように新しい風をいれませんか。以下に現市長の旧態依然の政治体質の問題提起をしますが、子ども達の笑顔溢れる輝く未来のために、今こそ市政を刷新することが求められます。

世襲・多選 親子で市長34年 市政は家族経営ではいけません

初代	吉田亀次郎	1955-1968年	4期連続
2代	会田源一郎	1968-1978年	3期連続
3代	大和田仁	1978-1992年	4期連続
4代	会田真一	1992年 - 現職	5期連続・会田源一郎元町長の息子

表の通り、現職の会田市長は世襲で、お父様も町長を10年務められました。親子で30年もの長期に渡り、予算権と人事権を持つ市長をされたことになり、多選が法律で制限されている国際社会から見ても異常な政治状況と言わざるをえません。行政の長である市長を監視する役割の市議会の議長と副議長も現市長を熱烈に支援していますが、市内には議長・副議長と関係性のある企業の看板が工事現場に立ち、ゴミ収集車も市内を走る状況は、20年間に及ぶ多選の制度疲労であり、公平性・平等性が求められる行政では、今こそ、一旦既得権益をリセットし、税金の無駄遣いを無くし、真に市民のための予算執行が求められるのではないのでしょうか?

私物化 守谷市の市制記念日2月2日は会田市長の誕生日



守谷市を私物化してはいけません。更に「市長の誕生日を市制記念日にするのは問題では?」と市職員が誰も言えなかったことも問題です。これこそが、世襲と多選の弊害が側近政治という形で現れています。今年は市制10周年でおめでたいですが、誕生日も同時に祝ってもらっている市長の心境はいかに? 私には理解できません。

6期24年

父親と併せて34年

市議19名中14名が応援

民間企業が勝手に決めた過去の住みよさ日本一を市長は誇り、世界一を目指すというが、駐車場だらけで使いづらい駅前開発の失敗を見ては世界一とは誇れません。かじおが博樹は市民が決める住みよさ日本一を目指します

税金の無駄遣い

守谷市長の退職金1期4年ごとに1760万円 5期で約8000万円

皆さんはご存知でしょうか? 守谷市長には1期4年ごとに1760万円の退職金が支払われていることを。民間企業では考えられない市長の退職金制度を梶井博樹は市議時代に廃止の提言をしましたが、会田市長には自ら身を切る改革ができずに、5期目の今任期が終わるとまた1760万円を受け取り、5期20年で単純計算で合計約8000万円を受け取るようになります。先日6期24年へのまさかの出馬表明を行ったので、全国最多の6期目にもしも突入すると、約1億円の退職金を受け取るようになります。市民感覚とかけ離れたこの制度を廃止しない限り、市役所職員の退職金制度改革には踏み込めないのは明らかであります。梶井博樹は今後も初心を忘れず、市長退職金制度の廃止を主張してまいります。

税金の無駄遣い

本当に必要? 黒塗り公用車による市長送迎通勤

皆さんはご存知でしょうか? 市長や議長の自宅の前には早朝おかかえ運転手(市職員)が自宅の前までお迎えに上がる。この東西に5キロ、南北に7キロの狭い守谷市で必要でしょうか? ちなみに梶井博樹は市議時代自転車通勤でした。



右が市長公用車、左が議長公用車 税金の無駄遣いの象徴です

しがらみは癒着の温床

市議会最終日の夜に市長、市役所幹部 市議会議員による宴会は中止すべき

皆さんはご存知でしょうか? 守谷市議会の最終日の夜は守谷市内で市長、市役所幹部、市議による大宴会が開催されていることを。二元代表制の元で市長と市議は緊張感が求められますが、馴れ合いもたれ合い、セレモニー化した市議会には税金の無駄遣いと思いませんか? 名誉のために書き添えますが、みんなの党と共産党の市議は宴会に出席していません。

2002年2月2日に守谷は町から市に変わりました。しかし、市制記念日は会田真一守谷市長の誕生日なんです。



裏面に続きます

市議が市長のピラを早朝の駅頭で配布する異様な光景

選挙一ヶ月前からオリンピック選手のように4年に一度オレンジ色のジャンパーを着て、早朝の守谷駅に多数押しかけ大声を張り上げる現職市長陣営。市内の建設業者もお手伝いをしています「選挙の前だけやられても」と市民はしらけ気味。更に問題なのは、二代表制の下で市長の監視機能が求められる市議の大半が市長のピラを配布している光景は市民レベルと大きくかけ離れています。4年前の選挙で「5期20年は長過ぎる」「権力は必ず腐る」と市民に訴えて元県議を推した市議達も今回はなぜか現職市長をこぞって応援している姿を見ると、腐ってしまったのは市議達の方ではと思うのが当然です。また、元県議が市長選に不出馬で8年前のように市長と元県議の住み分けが市にとっていいのでしょうか。選挙で政策を競い合っこそ、まちづくりは発展すると考えます。無投票はよくありません。4年前に元県議を推したにもかかわらず今回現職市長を応援している市議達は「5期20年は長いけど、6期24年は長くない」と演説するのでしょうか？信念無き政治屋は即刻市議会から退場すべきだと思いませんか？梶岡博樹は、守谷の未来をこのような方たちに任せておけません。このような守谷の政治の歪みを若い力で直してまいります。

2月の市議選で当選したばかりの 新人議員の大半がなぜか現職市長を応援

2月の市議選では新人が大量当選し、市議会の世代交代が一気に進むと期待をしておりました。選挙戦では新人候補は、現市政への不満を演説し、少しでも市を良くしたいと訴えました。しかし、蓋を開けて見ると、みんなの党と共産党以外の新人議員の大半が現職の市長を応援しております。今の市政に不満があるから新人に投票したのに、現状維持の市長をなぜ応援するのでしょうか？本来市長の監視機能が求められる市議会議員のほとんどが市長を応援する光景は市民レベルと大きくかけ離れています。

投票率が上がると困るの?? 他市はやっても守谷はやらない駅前期日前投票所

守谷市役所も「投票に行きましょう」と投票率アップを呼びかけますが、牛久市や龍ヶ崎市では既に導入されている駅前期日前投票所は守谷は頑なに設置しない。梶岡博樹も市議時代に、通勤途中に投票できるようにと便利な駅前期日前投票所の設置を呼びかけたが、市は予算を理由に拒否。市内に100箇所以上設置されるポスター掲示場も、新興住宅地にはほとんど設置されていない地域も。これでは、地縁・血縁や組織票のある現職有利な選挙制度で公平性に問題があります。民意はお金とは比べられません。予算を理由に駅前期日前投票所を設置しないのは、投票率が上がって欲しくないからと言われても仕方ありません。梶岡博樹は多くの人の民意が反映される市政を目指すために、駅前期日前投票所の設置を求めてまいります。

非常時にこそ政治家の真価が問われる 国・県の指示待ち市長は淘汰される

現市長は住みよさ日本一を誇るが、東日本大震災の福島第一原発事故の対応はどうだったか検証が必要です。小さな子どもを持つ母親が、放射線対策を市に求めましたが、校庭や公園の表土除去なども、対応が遅く、私立幼稚園の園長先生や保護者が涙を流し、市の対応の遅さを私に訴えてきたのを今でも忘れません。あつてはならないことですが、市の放射線対策の遅れから、多くの市民が市外に転出していきました。「子どもの健康と命を守る姿勢のないこのような市にはもう住めませんので、家を売りに出しました。」と私に伝えた保護者の言葉は今でも私の心に響いております。ホットスポットと評され、小さな子どもを持つ保護者の方々が不安な日々を送る中で、牛久市では実施しているが、守谷市は子どもの健康調査も行わず、国・県の指示待ちで、市独自の対策を全く講じておらず、子どもの健康と命を守る姿勢の欠如から、原発事故後一年以内に0から9歳までの440人の人口転出がありました。NHKで守谷がホットスポットだと報じられると、風評被害を生むということで、市長と議長がNHKに抗議に行きましたが、市民の多くは抗議自体の理解に苦しみ「真実を報道し、徹底した除染をしてもらいたい」とのご意見をいただきました。NHKに守谷市長として登場し、「どうしたらいいのかわからない」では、全くリーダーシップのかけらも感じられません。非常時にこそ、政治家の真価が問われ、反射神経が求められます。非常時には誰が市長をやっても同じということはありえません。今、日本は震災で国難なんです。

活動報告 9月28日 長老県議救済の選挙区割りを自民党だけで決定



茨城県議会の定数と選挙区割りを決める県議会改革等検討会議にて自民党の選挙区割り案の問題点を指摘するかじおか博樹

茨城県議会の定数と選挙区割りを決める県議会改革等検討会議が一年以上かけて議論して来ましたが、結局最後は、自民党が大洗と日立の現職県議の再選を助けるための選挙区割りを自民党だけで決めました。みんなの党のかじおか博樹や他の政党も採決を棄権しました。つくば市の定数が4に対し、つくば市よりも人口が少ない日立市が定数

5という開いた口がふさがらない自民党案が強行採決されました。更には、大洗の長老県議も救済のために、大洗町と鉾田市を合区とする通称「大洗マジック」と呼ばれる選挙区割りも決定され、自民党による県政史上最大の汚点と言わざるを得ない、保身の固まりのような選挙区割りには到底かじおか博樹は賛成できませんでした。結局定数も65名から2名しか減らさない自民党案が強引に決められました。アメリカのことわざで「七面鳥はクリスマスが嫌い」という言葉があるそうですが、議員自らが定数削減を行うことに無理があるということで、かじおか博樹は有識者を含む第三者機関に定数削減と選挙区割りを決めてもらう仕組みづくりが必要と提言しました。

▶9月29日付、朝日新聞の記事。かじおか博樹の発言が掲載されています。

市民の皆様と守谷の未来について共に考えるために

梶岡博樹は現在茨城県議会議員という立場ですが、守谷市選出である以上、地元守谷の政治がきちんとしてもらわないと困ります。ですから今回は、勇気を振り絞って市民の皆様と共に今後の守谷市を考えるために問題提起をさせていただき、課題の共有をさせていただきました。ご意見ご感想を頂戴できれば幸いです。私梶岡博樹への変わらぬご指導とご鞭撻をよろしく申し上げます。



この木★なんの木 かじおか博樹

事務所

〒302-0127
茨城県守谷市松ヶ丘 4-5-11
TEL: 0297-45-4487
FAX: 0297-45-2057
E-Mail: info@kajiohahiroki.com
URL: http://kajiohahiroki.com

「1増3減」を答申
自民以外は反発

県議会改革等検討会議の最終案が、自民党の選挙区割り案をめぐって、県議会議員の間で大きな反発を招いている。自民党以外の各党議員は、この案をめぐって、激しい議論を展開している。この案は、大洗町と鉾田市を合区とする「大洗マジック」と呼ばれる選挙区割りを決定し、自民党の定数を65名から2名しか減らさないとしている。自民党以外の各党議員は、この案をめぐって、激しい議論を展開している。この案は、大洗町と鉾田市を合区とする「大洗マジック」と呼ばれる選挙区割りを決定し、自民党の定数を65名から2名しか減らさないとしている。自民党以外の各党議員は、この案をめぐって、激しい議論を展開している。